

ごあいさつ

東京オリンピック・東京パラリンピックが1年延期され無事に閉幕いたしました。今までに経験したことのない、コロナ禍という時代、時間の中で私たちはいろいろな我慢を強いられ乍ら生活を送っております。この先いつまで続くのでしょうか……。明けない夜はない。止まない雨はないと言いますが……。ストレス時代と言われる中、このコロナ禍で日々の生活様式も変化をしています。2025年問題と言われる4年先に向け障害福祉を取り巻く多くの課題もまた山積しております。大変な時代ですが皆様お一人おひとりの英知を結集して、目の前のご利用者を幸せにしてあげていただきたいと思います。

さてこのような状況より山口県知的障害者福祉協会としましても、多くの部会研修会等を中止させていただいております。会議も今はズーム会議なるものに移行しており、これはこれで今からの生活様式のあり様なのかもしれません。本来ならば「山口県知的障がい施設福祉振興大会」を開催し今回発行の「研究集録/実践報告」の中で選出された愛護賞等の発表を予定しておりましたが、こちらについても中止とさせていただきました。去年に引き続き準備にご尽力いただいていた下関地区担当部会の方には深くお礼申し上げます。

今回、前述しましたが、「研究集録/実践報告No54」を編集ならびに発行することができました。このコロナ禍にも関わらず30編の応募があり、すべてを読ませていただきました。みんなちがってみんないい……。すべての方に愛護賞をあげたいと思うのはわたしだけではないと思います。どの支援も目の前のご利用者にとってはなくてはならないものであり、その支援によりご利用者に希望を与え、安心して生活できていることはまぎれもない事実であります。今まで多くの先輩が積み重ねた「研究集録/実践報告」もこれまでの53回を考えますと、実に1000を超える参考文献があるわけですし、これを生かさない手はありません。どうか皆様、この研究・実践をヒントに日々の支援を楽しんでいただきたいと思います。今回皆様のご苦勞に應える形で次年度より、愛護賞並びに愛護奨励賞の副賞の金額を増額させていただきました。ぜひ来年も多くの研究・実践報告をお待ちしております。そしていい支援を楽しみ支援をみんなで共有させてください。何卒よろしくお願いいたします。

終わりにになりましたが、本研究集録/実践報告に執筆いただいた皆様と編集にご尽力いただきました主幹施設・事業所並びに編集委員の皆様の皆様のご努力に対し、心より感謝申し上げます。

令和3年10月

一般財団法人 山口県知的障害者福祉協会
会 長 岩 武 毅